

アドテックプラズマテクノロジー (6668) 電話取材メモ アウトパフォーム (継続)

17/8 期 4Q も半導体液晶関連減少の気配なく上方修正で着地見通し、18/8 期も収益上伸に

株価 2010 円 (7/26) 時価総額 173 億円 (7/26) 発行済株 8,586 千株 (7/26)
PER (17/8 : 16.4X) PBR (4.8X) 配当 (DO 予) 14.00 円 配当利回り 0.68%

要約

- ・ 17/8 期 4Q も 3Q 比で半導体液晶関連減少気配なく会社予想に対し上方修正で着地見通し
- ・ 18/8 期は半導体設備投資の積層化・微細化で需要拡大、新製品も寄与し収益上伸続く
- ・ 医療用低温プラズマ発生装置やバラスト水処理向けプラズマ電源など新製品攻勢続く
- ・ 株価は DO 予想 EPS122.3 円に対し精密セクター平均 PER23 倍の 2800 円を新たな目標

17/8 期 4Q も 3Q 比で半導体液晶関連減少気配なく会社予想に対し上方修正で着地見通し

17/8 期 3Q の好調を受け、会社側は 17/8 期業績予想を再々度上方修正し、売上高 71.75 億円 (前回計画比変更なし)、営業利益 13.5 億円 (同 1.77 億円増額)、経常 13.7 億円 (同 1.89 億円増額)、税引利益 9.9 億円 (同 1.1 億円増額) とした。逆算での 4Q では売上高 19.00 億円 (前年同期比 32.9%増)、営業利益 2.31 億円 (同 21 倍)、経常利益 2.26 億円 (同黒転)、税引利益 1.22 億円 (黒転)、営業利益率 12.2% 予想となる。

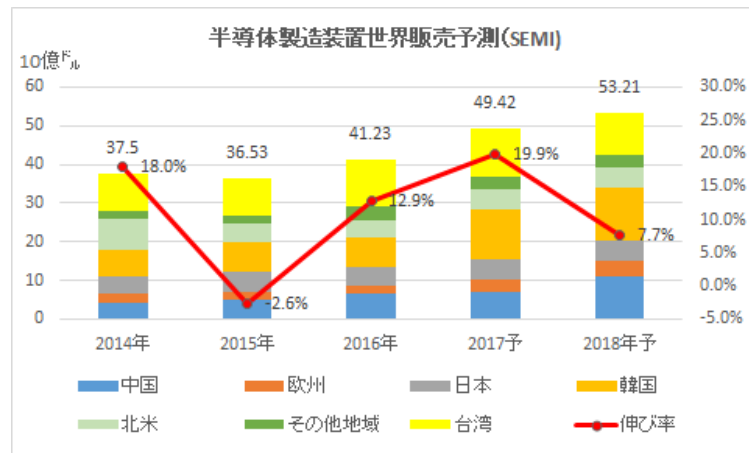
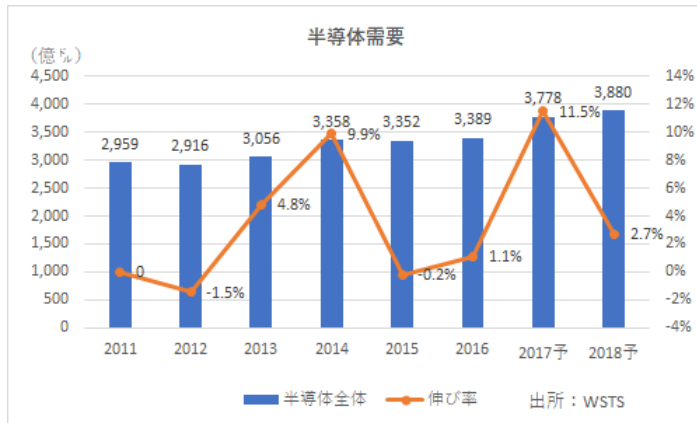
電話取材で、現状、主力の半導体液晶関連事業向けは世界的な半導体設備投資増からプラズマ電源への需要は落ちていないとのこと。また 3Q の利益率大幅上昇は限界利益率の高さから、損益分岐点を超えると急に利益が上乘せされるとのことで、特段プロダクトミックスの変化はないとのこと。但し、ベトナム工場での標準品のコスト削減効果は上乘せの要因。DO では前回 4Q の営業利益率が 3Q 比で 10 ポイント低下するのは、期末での各種評価損などの計上があると判断し、会社予想並みの収益達成を予想した。しかし半導体液晶関連の売上が 4Q も落ちない前提で、期末の各種評価減などがあっても、売上増分の利益増額があるとみて、17/8 期会社予想を超過達成できると判断した。

18/8 期は半導体設備投資の積層化・微細化で需要拡大、新製品も寄与し収益上伸続く

現在、同社の 5 大ユーザーはいずれも収益拡大が続く見通し。WSTS (世界半導体市場統計) 予測では半導体世界需要が 2017 年 11.5% 増の 3778 億ドル、2018 年も 2.7% 増の 3880 億ドルと過去最高を更新する予測となっている。これに合わせて日本製半導体製造装置需要も 2017 年は 11.0% 増の 1 兆 7363 億円、2018 年も 5.0% 増の 1 兆 8231 億円を見込む (日本半導体製造装置協会予測)。また SEMI の世界半導体製造装置販売 2017 年央予測では 2017 年が 19.8% 増の 494 億ドルと、2000 年の 477 億ドルを上回り過去最高となる見通しを発

表、2018年も7.7%増の532億ドルと予測した。

このような環境下で、特にエッチング装置は HDD から SSD への置換、スマホ搭載メモリの大容量化で半導体設備投資の伸びの3~5倍の台数が必要と言われており、18/8期以降も同社収益の拡大が見込める。しかも積層化ではマルチパターン化が進み、クラスターツール化（複数のプロセスチャンバーを持つ装置）も進展、エッチング装置ではソース用に加え、バイアス用にも大容量電源を利用することが多くなっている。3D積層化はエッチングにより下の層にダメージを与えないために、プラズマ CVD を利用してハードマスクを形成する工程が新



たに必要で、3Dエッチング工程ではプラズマ CVD 装置導入もセットされ電源装置の使用個数と大容量化に追い風となる。また同社は 17/8 期に新製品として半導体製造装置に付着した微粒子を除くプラズマ発生装置のリモートプラズマシステムを投入。従来の数分の1の電力で効率的に洗浄でき、半導体製造コスト削減につながる。チャンバークリーニング向け、CVDエッチング用プラズマソース需要としても期待され、新規需要に加え、既存の製造ライン向けも見込め、18/8期以降、中期的には数十億円規模の製品に育とう。

現在、3Dプロセスは2016年48層に対して2017年64層、2018年96層、2019年128層が予想され、新製品投入も加わり、半導体液晶関連プラズマ電源の伸長が続こう。増産対策について、ベトナム工場では人材教育が多少追い付かない面があるものの、利益面では標準品増産効果も大きく寄与しよう。

医療用低温プラズマ発生装置やバラスト水処理向けプラズマ電源など新製品攻勢続く

同社はリモートプラズマ以外では医療分野の低温プラズマ発生装置を発売、非接触で局所殺菌を可能とする低温皮膚炎治療やバイオフィルムの殺菌に効果がある。2014年に欧州医療機器認証 CE マークを取得、2016年に小型軽量化製品を開発、17/8期にドイツの医療

機関から受注し出荷も始めた。17/8 期以降、年間 10～20 台の販売が期待される。9 月発効のバラスト水処理では、海水電解処理設備用に電源が見込める。同社グループ会社の IDX で電気分解向けプラズマ装置を開発、18/8 期以降、研究機関向けの低迷を埋める起爆剤となる可能性がある。このほか SiC 基板向け大気圧プラズマ熱処理装置、非接触基板温度測定装置開発も行っており、パワーデバイス製造装置向けへの需要も期待される。さらに医療機器でもミリ波利用の電源を開発、新たな医療機器開発あり新製品攻勢が続く。

株価は DO 予想 EPS122.3 円に対し精密セクター平均 PER23 倍の 2800 円を新たな目標

同社の株価は、半導体設備投資、次世代液晶設備投資などの好調を受け順調に上昇したが、今回の修正会社予想 EPS115.33 円に対しても PER17.4 倍に過ぎず、依然割安感がある。最高益更新銘柄でもあり、同業国内最大手はダイヘンながら、専門メーカーのインパクトは大きく、DO 予想 EPS122.3 円に対して精密セクター平均 PER23 倍である 2800 円を新たな目標としたい。なお、来期も最高益更新が続く見通しで、中期的に 2014 年 8 月の最高値 3475 円を抜き、18/8 期 DO 予想 EPS174.7 円の 23 倍、4000 円を目指す動きとなろう。

アドテックプラズマテクノロジー(6668)								(百万円、円)			
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当	
16/8	5,314	-10.6%	187	-64.4%	130	-79.6%	28	-93.6%	3.3	4.00	
17/8Q1	1,543	27.3%	324	1412.2%	339	1079.8%	248	2188.9%	28.9	0.00	
17/8Q2	1,719	20.7%	280	245.9%	287	1120.6%	238	822.7%	27.7	2.00	
17/8Q3	2,014	61.3%	515	598.1%	517	320.0%	382	428.9%	44.5	0.00	
17/8Q4会予(7/14)	1,900	32.9%	231	1970.3%	226	黒転	122	黒転	14.2	2.00	
17/8H1	3,261	23.8%	604	490.5%	627	1098.2%	486	1227.1%	56.6	2.00	
17/8H2会予(7/14)	3,914	46.1%	746	778.4%	743	859.3%	504	-6279.2%	58.7	2.00	
17/8会予(10/14期初)	5,793	9.0%	444	137.6%	439	238.9%	286	905.4%	33.36	4.00	
17/8会予(1/13)	6,347	19.5%	684	265.4%	694	435.4%	473	1561.0%	55.2	4.00	
17/8会予(4/14)	7,175	35.0%	1,173	526.5%	1,181	809.9%	880	2990.2%	102.5	4.00	
17/8会予(7/14)	7,175	35.0%	1,350	621.1%	1,370	955.6%	990	3376.5%	115.3	4.00	
17/8DO予(5/8)	7,250	36.5%	1,400	647.8%	1,400	978.7%	1,030	3517.0%	120.0	14.00	
17/8DO予	7,300	37.4%	1,450	674.5%	1,470	1032.6%	1,050	3587.2%	122.3	14.00	
18/8DO予	9,150	25.3%	2,100	44.8%	2,100	42.9%	1,500	42.9%	174.7	30.00	
19/8DO予	11,000	20.2%	2,550	21.4%	2,550	21.1%	1,810	20.7%	210.8	40.00	

セグメント売上情報	17/8DO 予	18/8DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	6,460	8,050	9,600
研究機関・大学向	890	1,100	1,400
売上合計	7,350	9,150	11,000
セグメント営業利益	17/8DO 予	18/8DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	1,730	2,280	2,680
研究機関・大学向	-120	20	70
合計	1,610	2,300	2,750
調整額	-160	-200	-200
営業利益	1,450	2,100	2,550
営業利益率	17/8DO 予	18/8DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	26.8%	28.3%	27.9%
研究機関・大学向	-13.5%	1.8%	5.0%
部門合計営業利益	21.9%	25.1%	25.0%
調整額	-2.2%	-2.2%	-1.8%
営業利益	19.7%	23.0%	23.2%

四半期	16/11	17/2	17/5	17/8DO 予	17/11DO 予	18/2DO 予	18/5DO 予	18/8DO 予	18/11DO 予	19/2DO 予	19/5DO 予	19/8DO 予
売上高	1,543	1,719	2,014	2,075	2,000	2,250	2,300	2,400	2,300	2,600	2,700	2,800
営業利益	324	280	515	350	510	550	620	420	590	660	730	570
経常利益	339	287	517	326	510	550	620	420	590	660	730	570
親株主帰属純利益	248	238	382	182	360	390	450	300	430	470	500	410
四半期セグメント売上情報	16/11	17/2	17/5	17/8DO 予	17/11DO 予	18/2DO 予	18/5DO 予	18/8DO 予	18/11DO 予	19/2DO 予	19/5DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	1,412	1,495	1,774	1,779	1,850	1,950	2,000	2,050	2,100	2,300	2,400	2,500
研究機関・大学向	131	225	238	296	150	300	300	350	200	400	400	400
合計	1,543	1,719	2,014	2,075	2,000	2,250	2,300	2,400	2,300	2,700	2,800	2,900
四半期セグメント営業利益	16/11	17/2	17/5	17/8DO 予	17/11DO 予	18/2DO 予	18/5DO 予	18/8DO 予	18/11DO 予	19/2DO 予	19/5DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	373	296	530	530	540	570	580	590	610	660	690	720
研究機関・大学向	-48	-17	-14	-30	-30	-20	40	30	-20	0	40	50
部門合計営業利益	325	280	516	500	510	550	620	620	590	660	730	770
調整額	-0	-0	0	-160	0	0	0	-200	0	0	0	-200
営業利益	324	280	515	350	510	550	620	420	590	660	730	570
営業利益率	16/11	17/2	17/5	17/8DO 予	17/11DO 予	18/2DO 予	18/5DO 予	18/8DO 予	18/11DO 予	19/2DO 予	19/5DO 予	19/8DO 予
半導体・液晶	26.4%	19.8%	29.9%	29.8%	29.2%	29.2%	29.0%	28.8%	29.0%	28.7%	28.8%	28.8%
研究機関・大学向	-36.7%	-7.4%	-6.1%	-10.1%	-20.0%	-6.7%	13.3%	8.6%	-10.0%	0.0%	10.0%	12.5%
部門合計営業利益	21.0%	16.3%	25.6%	24.1%	25.5%	24.4%	27.0%	25.8%	25.7%	24.4%	26.1%	26.6%
調整額	0.0%	0.0%	0.0%	-7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	-8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	-6.9%
営業利益	21.0%	16.3%	25.6%	16.9%	25.5%	24.4%	27.0%	17.5%	25.7%	24.4%	26.1%	19.7%

